令和6年度 第6回東広島市地域公共交通会議 議事録

会議内での発言については、逐語録ではなく要約しております。

1. 日時

令和7年3月24日(月) 15:00～

2. 場所

東広島市市民文化センター 2階 研修室1・2

3. 出席者

塚井会長、井上副会長、山口委員(代理:関課員)、見崎委員、渡瀬委員、山根委員、坪内委員、山田委員、吉田委員、佐久間委員、山田谷委員、蔦委員、丸石委員、大月委員、藤原委員、台信委員、惣引委員

4. 議事次第

1 開会

2 審議事項

(1) 令和7年度東広島市地域公共交通会議予算(案)について

3 審議事項

(1) 東広島市都市交通計画(地域公共交通計画)の進捗管理について

(2) 各種事業進捗報告について

4 その他

5 閉会

審議事項(1) 令和7年度東広島市地域公共交通会議予算(案)について

○事務局: <資料説明>

○塚井会長: ご意見、質問などはあるか。

○蔦委員: 黒瀬地区のバス交通結節点の整備を進められていると思うが、社会資本総合資本金を活用していると聞いている。整備の進捗やスケジュールを確認したい。

○事務局: 整備の進捗状況だが、令和6年度から着手しており、令和6年度～令和7年度の2ヶ年に掛けて整備をしている。令和6年度は、隣接している広島電鉄の兼広バス停の共用を行った。広島電鉄の兼広バス停は、待合室、駐輪場、駐車場を併設している。令和7年度は、改めて造成工事の発注予定あり、バスのロータリー部分、歩道、バスのシェルターの整備を行う。

- 蔦委員**： 兼広バス停というのは、すでにあるバス停を活用しているということか。
- 事務局**： 現在、広島電鉄の呉方面と広島国際大学方面の路線バス及び広島国際大学と兼広バス停を結ぶシャトルバスが経由している。
- 塚井会長**： その他ご意見、質問などはあるか。
- 山根委員**： 黒瀬地区の共創型交通プロジェクトとして、当社の呉方面からの路線について案内があったが、この路線は、もともと呉市交通局が運行していた路線の移管を受けた委託路線である。この計画を進めていく上では呉市とも調整しながら再編する必要がある。
- 事務局**： 公共交通は市内だけで完結するものではないので、関連市等と調整しながら進める。
- 山田谷委員**： 事業の方向性のところで、広島国際大学が広島国際大学～矢野駅までスクールバスを運行しているということか。
- 事務局**： 広島国際大学が運行しているスクールバスは、広島国際大学黒瀬キャンパス～矢野方面までと、広島国際大学黒瀬キャンパス～兼広バス停までのピストンで運行するもの、広島国際大学黒瀬キャンパス～呉キャンパスまでのものの3路線がある。
- 山田谷委員**： スクールバスの一般路線化ということは黒瀬町内に限ってということか。またアンケートの結果を見て、一般路線化の方向性に進めているのか。
- 事務局**： まず、広島国際大学～矢野駅間のスクールバスを、誰でも乗れるようにしたい。途中の停留所については現時点では未定。熊野町内に入ると広島電鉄の路線もあるので競合にならないように調整を進める。アンケートについては、熊野町内の停留所も含めてアンケートを取った。大学生には、大学と矢野間を移動出来たらよいということ、住民は矢野方面へ移動する選択肢が増えるということは望ましいことと受け止められている。また、住民は熊野町までの移動を望まれている。それを踏まえて今後事業者と連携して決めていきたい。
- 塚井会長**： その他ご意見、質問などはあるか。
- 塚井会長**： 国際大学が貸切で運行していたバスについては、学生は今まで無償だったのか。
- 事務局**： 学生から一部負担金を取られていた。
- 塚井委員**： シャトルバスということだが、貸切バスを1台でピストン運行しているのか、イメージが出来ていないが、大学生の利用ということなので、朝夕以外の運行があり一日の運行便数がある程度あると想定している。一般路線化することによって、国際大学の学生の利便性を一番に考えるのなら、現状を維持しあまり手を入れない方がよいのではないかという懸念がある。昼間のドライバーの資源の活用という問題なのか、見込みや見通しがあれば補足してほしい。

○事務局： シャトルバスについては、広島国際大学～兼広バス停を往復32便運行している。ただ単に大学のスクールバスの機能だけでなく、地域住民の大学の訪問や、大学生の移動、地域での活動を促進し活性化することを期待している。新しく整備する黒瀬の結節点を有効活用しながら、大学生の催しを結節点で行うことなども考えている。

大学の寮に約700名の学生がいる。黒瀬地域の公共交通も含めた移動の需要としては多いところである。大学側としても地域住民に大学に来てほしいという方針を持っており、その方針とシャトルバスの活用は合致する。寮生や通学者も含めると約2,000名に近い移動があり、そこを活発化して地域に良い影響を与えていきたい。通学に限らず、日常生活を支えられるような交通として、大学が運行しているスクールバスを資源と捉え、地域の公共交通を強化していくことはできないかと考えている。

○塚井会長： 広島国際大学～矢野駅間のバスとシャトルバスは別の方が乗務されているのか。別の方ということであれば、乗務員の方の制約条件を考えると便が充実する可能性があるのか。

○事務局： 現状としては、広島国際大学～矢野駅間のバスとシャトルバスは別である。交通事業者と意見交換する中で、矢野駅までのスクールバスを、一部シャトルバスを兼ねることでより効率的に回せるのではないかという話もある。

○塚井会長： 今後市内の学校の統廃合が進む中で、スクールバスをどうにかしたいということが発生すると思う。重要なのは、大学と高校生以下とは違うということ、どれも帰り便がバラバラになる可能性が高い。学校が望む頻度に対して輸送効率は稼げない。特定の事業者が路線の形をお願いするやり方で、スクール便の帰り便が確保できるかという問題がある。帰り便が集中しないため、車両サイズ等を考えると、行きを担当する事業者と帰りを担当する事業者が変わる可能性もある。当市だけの問題ではなく、全国的に問題だと思う。

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○塚井会長： それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。

○全員 <意義なし>

○塚井会長： 本審議事項については、合意したものとする。字句等の修正については、会長に一任いただきたい。

報告事項（1）東広島市都市交通計画（地域公共交通計画）の進捗管理について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○塚井会長： 現況値という言い方ではなく、基準年という言い方が良いのでは。

○事務局： 資料を基準年と修正する。

- 塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。
- 大月委員： モニタリング結果で、安芸津の海風バスの基準年の利用者数はコロナ前よりも良化しているが、何か特別な対策があったのか。
- 事務局： R2からR3が増加しているのは、芸陽バスの安芸津駅から大芝、安芸津駅から竹原方面のバスが廃止になり、それに伴い安芸津の海風バスが増便対応しているため増加した。
- 塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。
- 見崎委員： バスと新幹線の乗継のイグレスに対してだが、当社は新幹線の到着時刻で接続している。このモニタリングは発車時刻で作られているので、精査していただきたい。また、当社は接続時間可能時間を到着時刻から4分以降としている。モニタリングの判定では、5分から30分となっている。この点も確認していただきたい。
- 事務局： 時刻表のダイヤから時刻を拾っているのでは、そうになっているが、到着時刻を考慮して精査する。
- 塚井会長： 確認して、運行事業者の考えと乖離していると評価をしている意味がなくなるので、精査をしていただきたい。
- 塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。
- 塚井会長： 乗務員の方のひっ迫が様々な事業で言及されることが多くなっている。ひっ迫していること事態を疑っているわけではないが、ひっ迫しているということを理解して協議をしないと様々な事業を立てる中で公的資金を投入する立場で行政の立場から考えると、説明や理解が難しくなるのでは。運輸行政としてはどのように把握されているのか。
- 蔦委員： 現状はどれだけ乗務員が不足しているかというのは持ち合わせていないが、事業者からデータを提供してもらうことも必要になるかと思う。
- 塚井会長： 公的資金導入額の増減について、単純に補助の金額が増えているから良化、金額が減ったから悪化と評価すべきではないのではないか。乗務員のコストを掛けるようにするという方向に社会的にもなっている。給与を上げて労働環境を改善するという事を考えないといけない。コストが下がったから良いということを経年やり続けてきた結果、サービスを切り詰める方向に進んでしまった。公表指標になっていると、様々な読み取り方をされてしまうので、良化・悪化について表現を注意するように。
- 事務局： 決して補助金が減ったから良化したとか、増えたから悪化したとは交通担当としては考えていない。趣旨を踏まえてどういう表現がいいのか精査する。
- 塚井会長： 事実判断をすべきものと価値判断をすべきものと分けて表現するように。
- 塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。
- 全員 <なし>

報告事項（２）各種事業進捗報告について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 計画運休などは SNS で発信した方が良いのでは。可能な範囲で発信することは検討しても良いかと。

○事務局： 運行状況についての投稿はない。工事などで数か月前から運休とわかっているものもあるが、それを投稿するか投稿しないかの判断が難しい。交通会議の SNS で全く触れないのはどうかと思うが、現時点では触れる予定はない。協議はしていきたい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○蔦委員： 令和 6 年度に開催されているひがしひろしま都市交通シンポジウムは次年度以降も予定はしているのか。

○事務局： 令和 6 年度は初めての取組であり、新規事業で、市で予算を取り開催した。令和 7 年度は現時点では予算の要求をしていない。今後の交通の取組や状況により、対外的に理解を求めていく必要があるれば開催していきたい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： SNS を運用していく目的はプッシュ型の情報提供のほず。東広島市がやるべきではないのかもしれないと思いつている。誰がどのタイミングで、どんな情報を出すかについて、きちんと話し合い整理することが必要である。情報の流れをスムーズにし、円滑にすることが大切。公共交通の情報は自ら取得しにくいいため、今回の事業の大きな役割になるかはわからないが、もう少し改善できないか。この機会にぜひ検討していただきたい。

○塚井会長： その他お話をしたいことがあるか。

ないようなら、「各種事業進捗報告について」の報告を以上としたい。

○事務局： 来週の火曜日から新年度になるので事務局からお願いをしたい。委員の皆さままで人事異動がある場合は、所属・役職・氏名・メールアドレスを 3 月 31 日までに東広島市地域政策課事務局へお知らせいただきたい。人事異動により、異動となられても引き続き、東広島市地域公共交通会議を応援していただきたい。SNS も開設しているのでこちらもフォローをお願いしたい。

○惣引委員： 今年度の最後となり、事務局を代表してお礼の挨拶を申し上げる。当会議においては、通常の路線の運行計画等の審議に留まらず、都市交通マスタープラン、都市交通計画の進捗管理など幅広い分野に渡り検討いただいている。また自動運転隊列走行 BRT の分科会も設置し、様々な分野で検討をいただいている。令和 7 年度から発展的階層として、ソフトに関する交通施策を一体的に進めるということで、都市交通部へ移管ということになる。委員の皆

さまには引き続きご支援・ご指導を賜り、ますますのご健勝、ご活躍をお祈りする。

○**台信委員**： 令和7年度から都市部が都市交通部に名称変更し、公共交通全般に関する所管課として新たに交通政策課が立ち上がり、こちらの会議をさせていただく。引き続きよろしくお願ひしたい。

○**塚井会長**： それでは、これをもちまして、本日予定されていた議事等は、全て終了した。委員の皆様には、会議の円滑な進行に御協力いただきまして、ありがとうございます。以上で令和6年度第6回東広島市地域公共交通会議を終了する。

以上